

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報) / 米延 仁志

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

(これまでの取り組み状況)主として教科専門の科目を担当している。新学習指導要領への対応と教員採用試験への実践的な対策を念頭に、過去2年間、学習内容の再構築に取り組んできた。具体的には、就職支援行事や過去問題集を通して得た近年の教員採用試験の傾向や学生の基礎知識を総合的に考え、本来、専門科目として細かい部分に立ち入って行ってきた学習内容を思い切って削減し、学校教育での授業実践に必要な内容から学習過程を構成することを試みてきた。一方で、技術科の指導要領では内容的に高度な項目も含まれており、本学の学生が一般的に弱い理数系の内容を現在以上に減らすことは、長期的に見て望ましくないと考えるに至った。

(今年度)座学的な教科においても実験・実習的な要素を大幅にとりいれ、講義内で演習問題への解答と復習を繰り返し行うようにすることで、体験的な学習と理論的な理解のフィードバックができるようにした。また、成績評価を出席状況、受講態度、演習課題への取り組みなど項目ごとに評価比率を明示して、総合判定することとした。

2. 点検・評価

座学的な教科においても実験・実習的な要素を大幅にとりいれ、講義内で演習問題への解答と復習を繰り返し行うようにすることで、体験的な学習と理論的な理解のフィードバックができるようにした。また、成績評価を出席状況、受講態度、演習課題への取り組みなど項目ごとに評価比率を明示して、総合判定した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①担当授業の学習内容の精選とテキストの更新に取り組む。
- ②学生の相談に随時応じ、自らの課題解決について、学生が自律的・主体的に取り組むことを促す。
- ③教員採用試験対策等において積極的に関与する。

2. 点検・評価

- ・担当授業の学習内容の精選とテキストの更新に取り組んだ。講義においても実習・演習的な要素を取り入れ、学生が自ら課題に取り組むことを促した。
- ・学生の相談に随時応じた。
- ・講義・ゼミでは教員採用試験に役立つ内容を明示した。教員採用ガイダンス等就職支援行事に積極的に関与した。
- ・学部4年生クラス担任として、教育実習や教員採用対策等で積極的に指導した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①現在、推進している新学術領域研究の推進に全力を尽くす。また同科研究費の中間評価(H23年度)で高い評価を得られるように努力する。また、本学理事、事務組織に協力を要請する。
- ②国内外の共同研究を精力的に遂行する。
- ③研究成果を纏め、論文を出版する。
- ④領域融合的・国際的な共同研究を活発に行う。
- ④研究助成の公募に積極的に申請する。

2. 点検・評価

- ・科研課題のの推進に全力を尽くした。
- ・国内外の共同研究を精力的に遂行した。
- ・招待講演での発表を行い、国際誌に論文を出版した。
- ・領域融合的・国際的な共同研究を活発に行った。
- ・研究助成の公募に積極的に申請し、新学術領域研究に加えて、本年度は基盤研究Aが採択された。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

担当する委員会に積極的に参加し、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- ・就職委員を担当し、教員採用ガイダンス等就職支援行事に積極的に関与した。
- ・知的財産室、及び利益相反委員会の委員を務め、解決すべき課題に対して誠実に対応した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①研究評価(科研費評価委員, 国内外の研究におけるレビュー等)に全力を尽くす。
- ②研究課題を中心に講演会や研究発表を積極的に行う。
- ③国際的な共同研究を推進する。
- ④附属学校の教材作成への協力や提供を行う。

2. 点検・評価

- ・附属学校教員に教材・教具を提供した。
- ・日本第四紀学会2011年大会を本学で開催した。大会実行委員長を務めた。
- ・文科省科研費評価委員を務めた。
- ・那覇市において公開シンポジウム「沖縄から考える環太平洋の環境文明史」を主催し, 講演を行った。
- ・教員・小中高の生徒, 社会人を対象に, 見学旅行「100 万年の東四国を探る」を主催した

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ・本学に著名研究者を招聘し公益性の高い催し物を主催した: シンポジウム「環太平洋の環境文明史」, 「徳島で考える地震津波と防災～東日本大震災からの新たな教訓」
- ・科研費採択に向けた講習会の講師を務めた。